位置図・活動計画図の作成方法について

**＜位置図＞**

縮尺：１／2万5千～１／5万地形図を原則とするが、縮尺が合致すれば道路地図、ネット地図等のコピーで可とする。

記載内容：近隣の主要国道、鉄道、学校など目標となるものを含む範囲とし、併せて方位、縮尺、申請箇所などを明記する。

**＜活動計画図＞**

・対象森林の面積が分かる縮尺5,000分の１以上の図面を添付すること。

・事業実施箇所のエリア別、活動タイプ別、年度別の関係がわかるよう作成する。

・森林経営計画の策定の有無を図示する。

・森林機能強化タイプにおいては、改修を実施する路網や鳥獣防止柵を図示すること。

|  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| エリア | 地番 | 面積・延長 | 実施する活動タイプ | 長期にわたり手入れがされていなかったと考えられる里山林 | 森林経営計画策定の有無 |
| 令和２年度 | ３年度 | ４年度 |
| エリア１ |  | ha |  |  |  |  |  |
| エリア２ |  | ha |  |  |  |  |  |
| エリア３ |  | ha |  |  |  |  |  |

**＜対象森林の現況がわかる写真＞**

１：全体を把握できる写真

エリアごとに、森林の全景を撮影する。

２：タイプ別の確認用写真

（１）里山林保全タイプ（スギ・ヒノキ林、雑木林、その他）

　それぞれの樹種ごとの生育状況、混み具合、林床植生の繁茂具合などを撮影する。

（２）侵入竹除去タイプ（竹林が他の樹種に侵入している）

　竹林が他の樹種からなる森林に侵入し、圧迫している状況を撮影する。

　アズマネザサ（しの竹）に関しては、著しく繁茂している状況が必要となる。

（３）竹林整備タイプ（過密竹林）

　竹林が過密になり荒廃している状況を撮影する。

（４）森林機能強化（作業道）

　作業道を入れる箇所を、５０mに１か所程度撮影する。

３　写真撮影枚数及び撮影位置

いずれも数枚ずつ撮影し、撮影位置を記入した図を作成する。

**＜作成例＞**

活動計画図

|  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| エリア | 地番 | 面積・延長 | 実施する活動タイプ | 長期にわたり手入れがされていなかったと考えられる里山林 | 森林経営計画策定の有無 |
| 令和２年度 | ３年度 | ４年度 |
| エリア１ | 32－1 | 1.1ha | 里山林保全 | 里山林保全 |  | ○ | × |
| エリア２ | 33 | 0.9ha | 竹林整備 | 竹林整備 |  | ○ | × |
| エリア３ | 12 | 2.3ha | 侵入竹除去 | 侵入竹駆除 | 里山林保全 | ○ | × |
| 作業道 | 11他 | 200ｍ | 森林機能強化 |  |  | ○ | × |

千葉市ちば字ぼうそう32－1番地　他　計10筆

注１：不要な項目は削除するなどして事業の実態に合わせて適宜作成する。



１２

３３

３２－１

作業道は１１、〇〇、〇〇・・・・・・・の7筆　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　縮尺　1／２５００